

高中生“沖縄特派員”新聞

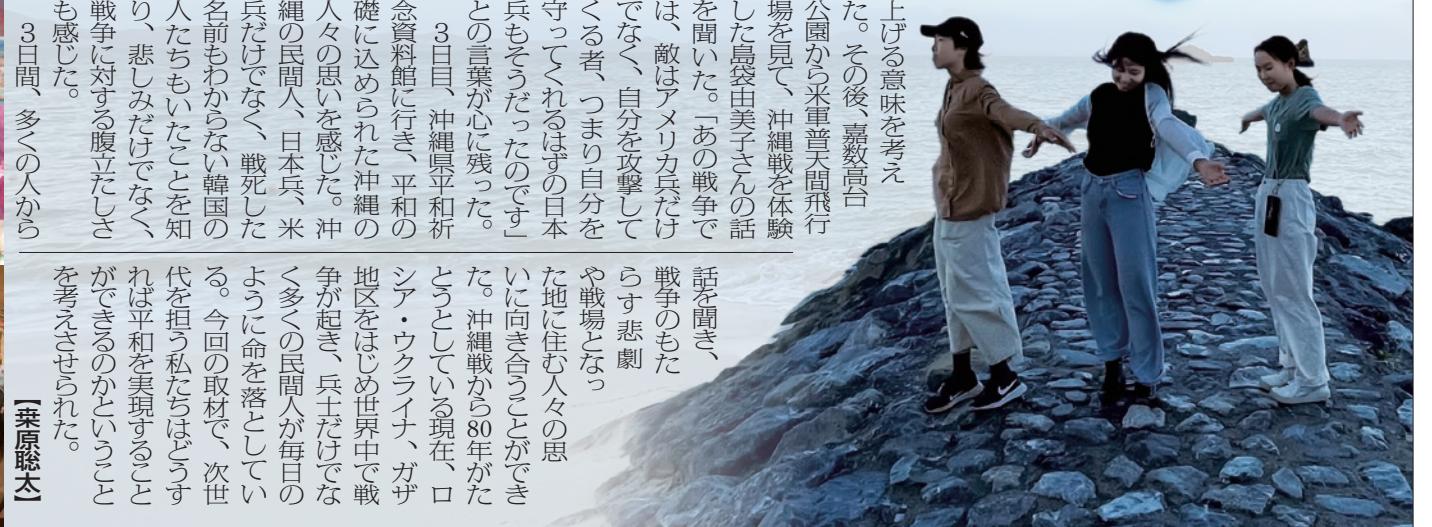
発行：大阪いすみ市民生活協同組合 組合員活動委員会 〒590-0075 大阪府堺市堺区南花田口町2-2-15 TEL:072-232-3095



員は、9月21日から23日の3日間、沖縄の現状、米軍基地や沖縄戦に対する沖縄の人たちの思いを取りました。

1日目、米軍嘉手納基地を望む道の駅かでなどチビチリガマへ行った。嘉手納ではそこで暮らす人々の思いを、ガマでは遺族会会長の案内で中に入った。当時のまま残っている内部を見ながら、今では想像もつかない悲惨な最期の様子を聞き、言葉を失った。

2日目、米軍辺野古基地建設の埋め立てが行われている大浦湾でグラスボートに乗る予定だったが、波が荒くて中止となり、砂浜や公民館で話を聞いた。ここでは、基地建設によって、海底の泥が舞い上がって海の生態系が破壊されていること、基地建設への反対の声を



高校生特派員 が行く!

左か

森原 聰太さん(1年)
高橋 康太さん(2年)
安宅 優那さん(2年)
舟場 琴美さん(2年)
島 明香里さん(1年)
田中 志奈さん(1年)
小山 来実さん(2年)

「高校生“沖縄特派員”新聞」の取材・編集には毎日新聞が協力しました

「いしじ」とは、沖縄の方言で基礎「いしざえ」に由来し、ゆるぎない平和への思いが込められている。刻銘碑には、沖縄戦で亡くなった沖縄県民、沖縄県以外の方々、ハングルの名前、米国兵士の名前など、敵味方関係なく、犠牲になった一人一人の名前が刻まれていた。そこから見た海は美しい青色で、ここで壮絶な戦闘があったとは想像できない風景だった。

司令官と参謀長は洞窟の開口部近くで割腹自決したという。丘の上には慰霊碑が建っている。

丘とその周辺は平和祈念公園となり、各員の慰靈碑が整然と並び、「沖縄戦没者墓苑」に身元不明の人たちの遺骨が祭られている。

丘から海の方へ降りた所に、沖縄師範学校男子部生徒らで構成された鉄血勤皇隊の戦没者慰霊碑と勤皇隊のガマがある。自分と同じ世代の若者の思

▶鉄血勤皇隊の壕に入り取材する特派員

みんなの**声**をお聞かせください!



みんなさんの**声**をお聞かせください!



高校生“沖縄特派員”新聞vol.6 読者アンケート

揺るぎない 平和への想い



The collage consists of several photographs arranged on a yellow background with a tropical floral border. The photos include:

- A title card with the text "でーじ好きさー" and "うちなー日記" (Uchina Diary) in a stylized font.
- A photo of two young women at a restaurant, one holding a colorful cocktail.
- A photo of a teppanyaki chef cooking meat on a hot plate.
- A close-up of a dish of shrimp tempura.
- A photo of two young men at a restaurant, one holding a cocktail.
- A photo of a traditional Okinawan stone lion statue.
- A photo of two young women holding up large, colorful paper cutouts of traditional Okinawan figures.
- A photo of two young women at a restaurant, one holding a yellow flower.
- A photo of a restaurant interior with a "SAILOR INN" sign and a menu board.
- A photo of a hand holding a large, colorful ice cream cone.
- A photo of a hand holding a smaller ice cream cone.

